

くすりと健康のはなし

薬包紙

第50回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
医薬品委員会・一般医薬品グループ委員

高田 春樹



幼い子どもが口にしてはいけない物を飲み込んで、窒息や中毒などを起こす誤飲事故が後を絶ちません。近年の調査報告では、医薬品・医薬部外品がタバコを抜いて、報告件数1位となっています。親や祖父母など大人が使っている医薬品を、幼い子どもが誤飲する事例が報告されています。また、甘い味のついた口腔内崩壊錠の誤飲や、シロップ等おいしいものとして認識して、冷蔵庫から自ら取り出して誤飲する例も報告されています。

これから夏休みで旅行、帰省などのご予定もおありでしょ。事故を防ぐために、あらためて周囲の大人が気を付けるポイントを確認しましょう。医薬品の保管は、子どもの手が届かない見えない場所に保管しましょ。服用後はそのまま放置せず、元の安全な場所に片付けましょ。シロップ剤を冷蔵庫に保管する際には、ジュースと一緒に並べて保管するのはやめましょ。万が一誤飲した場合には、直ちに専門の相談機関に連絡するか、必要に応じて医療機関を受

診してください。相談する際、的確な回答を得るために誤飲した医薬品名や摂取量等、誤飲事故の発生状況を正確に伝えることが重要です。

薬の包装にはPTP包装が普及しています。薬を清潔なまま取り扱うことができます。そのPTPを1錠ずつ切り離した薬を、ついうつかりして包装ごと飲み込んでしまう事例が報告されています。可能な限り1つずつ切り離さずに保管しましょ。ハサミなどで1錠ずつ切つてしまふと、誤飲を招きやすいサイズになる上、切った角が鋭くなり、誤飲した場合に体内的組織を傷つける危険があります。

特に高齢の方は1回分の薬の量が多い場合があり、気が付かないこともあります。周りにいる人も気を配ることが事故を防ぐ上で重要です。1回分の薬をまとめて袋に入れる「1包化」を活用することも、飲み忘れや誤飲の防止に役立ちます。薬剤によつては1包化が行えない場合がありますので、かかりつけ薬剤師等に相談してください。